

# ご意見用紙

## 玄海原子力発電所に関する県民説明会

※この用紙は、記入後エントランスホールの回収箱にご投入ください。  
※本日、回収箱への投入が難しい場合は、裏面記載の県内各地に設置しています県政提案箱にご投函いただくことも可能です。

\* なお、ご記入の前に裏面の〈お願い〉をお読みください。

テーマ	★該当する項目をチェックしてください（複数選択可）。 <input type="checkbox"/> エネルギー政策に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 原子力安全対策に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 原子力災害対策に関すること <input type="checkbox"/> その他
「新規制基準」について 先日(2月21日)の説明会で発言したかった内容です。 「世界で最も厳しい基準」と政府は評価し、規制委員会は、それを否定や修正をしていないので、肯定しているものと看做される。 原発が導入される頃から、原発の危険性やその他の問題点を指摘し続けている学者・専門家・研究者をはじめとして、多くの学者・専門家・研究者たちが、世界で最も厳しいという評価に対し、疑問や異議を唱えています。私は、その人たちの意見を聞いたり・読んだりして、「世界で最も厳しい基準」と言うのは おかしい・まちがっている・はずかしいと思っています。特に、そのように感じていることのいくつかを挙げてみます。 「原子炉立地審査指針」を適用しないことにしたこと。そして、そのことに関連して、と思われる「福島のような放出の状況を仮定すると立地条件に合わなくなってしまう」という、田中俊一・原子力規制委員会委員長の記者会見での発言が伝えられています。国民の安全と原発のどちらを大切にしているのかと思いました。 重大事故(シビアアクシデント)が発生したときの災害対策について、避難計画とその実施性について、規制委員会の対象にしていないうこと。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スイスなどと比較して、説明してください。 * 紙面の都合で以下略。 提案です。 新規制基準の問題点について、原子力規制委員会と、規制委員会が推薦する学者・専門家と、例えば、原子力市民委員会の学者・専門家が、問題点とされることについて話し合っ、本当に問題があるのか、問題があれば、どのように解決するのかなど、一般人にわかりやすく説明する印刷物などにして、提供(販売でもよい)してもらえると、国民的な議論になり、諸問題の解決に役立つと考えています。御検討願います。	

会場名に○をつけてください⇒

唐津・武雄・佐賀・伊万里・鳥栖

所属受付印